

大阪大学は最新の心理学の成果を取り入れ、産学連携や起業に取り組み、教官や学生の意識改革を促すプロジェクトを始め、失敗を悪いことだという考え方を払しょくし、大学発ベンチャー企業の経営に挑む心意気を養う。国立大学では珍しい試みといえる。

阪大の産学連携窓口になっているフロンティア

起業の心意気 心理学で養う

研究機構が二十四日から始める。米国で開発された「プロセス・オリエンテッド・メモリー・リゾリューション」と呼ばれる心理学療法を取り入れる。親の暴力や事故の影響で精神や身体に大きなストレスを受けた人に、自信を取り戻させ治療していく方法だ。

応募してきた学生や教官三十六人を対象に同療

阪大、2年間かけ検証

法を実施。二年がかりで、療法を受けないグループと比較し効果を検証する。阪大はこの分野の専門家である米サンフランシスコ大学の田中万里子名誉教授をプロジェクトリーダーに招いた。

プロジェクトの世話人である阪大工学部の森勇介助教は「自分で物を考えて実行する力を育てたい」と話している。